

明石に来る人、住む人に「多幸」あれ。
Vol.4 2021 Spring-Summer

季刊 ひるあみ

明石公園・春らんまん

ヘビーユーザーも驚きの20スポット案内

明商・狭間監督が語る「憧れの明石球場」

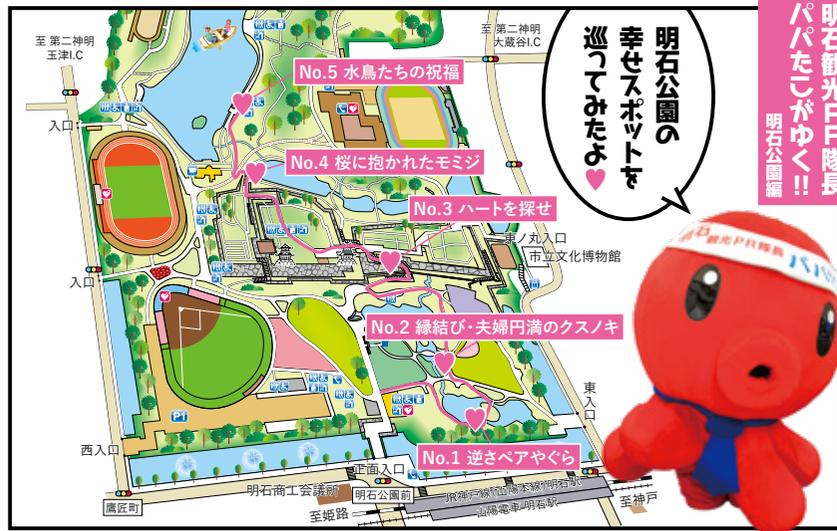


季刊ひるあみ

Vol.4 春夏号

2021年3月31日発行

発行元(社)明石観光協会 明石市東仲ノ町6-1 アスピア明石北館7階 ☎078-918-5080
編集 1140B 無料 Printed in Japan



明石観光PR隊長
パパたごやく!!
明石公園編



明石のまち歩きは……あかし案内所(ピオラ明石西館内)へお気軽にご相談ください。

明石公園 Bゾーン

♡ 幸せスポット

明石城築城時の石垣の刻印が目の前に！

二ノ丸・東ノ丸は400年の時の流れのなか、静と動を体感できるエリア。建築当時の刻印が色褪せず残る石垣、力強く自生する豊かな木々のたくましさにご注目ください。

4 松平直明公遺愛の井戸跡

八代藩主・松平直明

公は茶人としても知られ、茶を点てるために愛用していた井戸跡が残る。「当時は湧き水がコンコンと溢れていたようですね」（今村さん）



5 ハートを探せ

石段の中腹、左手の石に小さな♡模様。花崗岩にできた地衣類という菌

明石公園 Cゾーン

♡ 幸せスポット

本丸の展望台と剛ノ池で幸せな眺望を。

明石城が誇る、国指定重要文化財「坤櫓・巽櫓」がそびえる本丸へ。展望台から淡路島、明石海峡を一望した後は、剛ノ池が堪能できる屋上庭園へGO！

10 おすすめフォトスポット

展望台からは明石市街や、淡路島、明石海峡大橋が一望できて、スマホのカメラ台が設置されている。「淡路島が意外と近くに見えるよ」（山本さん）



11 リサイクルストーン

天守台に向かって上がる石段の一番下に、道標なのか、転用され



と藻の仲間が混ざったもので、自然がかたちづくる不思議なハートだ。

6 白骨松

幹が白っぽい一本の松は「白骨松」といい、松葉が高野山の三鈴の松と同じように三本に分かれている。落葉の中で見つかればラッキー！「財布に入れておけばお金が貯まると……。ホントならいいですね」（今村さん）



7 埴輪の木

ヤマモモの木の幹に大きな穴！まるで口を開けた埴輪のようにも。



た石が使われている。他はほとんどが自然石なのにここだけなぜ？

12 天守はないのに台はある？

元和5年（1619）、小笠原忠政（後の忠真）によって築城された明石城には天守はないが、約500平米の広大な天守台（熊本城と同規模）が築かれた。



13 桜に抱かれたモミジ

桜堀の北西入り口近くに生えている桜の幹から、なんと、かわいい枝が……！大切にうに抱かれているモミジの幸せそうなこと♡



14 ツインカラーの花の木

剛ノ池の南側に位置する、花と緑の

「ハロウィンの魔女やお化けの仮装のようだね」（山本さん）

8 猫バス石

猫バスのように足がいつぱいついた石が石垣に潜んでいる。「この足に見える凹みは、岩石を割るためのノミ跡で『矢穴（やあな）』と言います」（田淵さん）



9 謎の刻印

目の前でも見ることがができる石垣の中に刻まれた印の数々。調査によって、86種類、1445個の刻印が見つかっている。ぜひ、いろいろ探してみよう。「これって暗号かなあ。実は町民たちの屋号でもあるんだよ」（山本さん）



まちづくりセンターの屋上庭園のゲンペイモモは、3月になると、1本の木に白とピンクの花が咲き誇り、華やかでとてもきれい！



写真提供：兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター

「屋上庭園は大きな木の円形テーブルがあり、休憩にもおすすめです。春には剛ノ池と桜並木全体が一望できます」（田淵さん）

15 水鳥たちの祝福

かつては外堀の役割を担っていた剛ノ池。冬に渡来するユリカモメは人懐こい。エサをやると集まってきて、まるで祝福を受けているような気分♡



写真提供：兵庫県園芸・公園協会

春は見事な桜並木が周囲800mの剛ノ池を彩る。ここでもう一度、須飼秀和さんが描いた表紙をご覧ください。

スポーツの物語が満載のエリアです。

明石トーカー球場（第一野球場）、きしろスタジアム（陸上競技場）など、豊かなスポーツシーンを展開する明石公園ならではのトリビアゾーンです。

16 県木ストリート

全国高等学校軟式野球選手権大会の優勝校のプレートとともに優勝校の所在地の県木が陸上競技場の周囲に植えられている。第1回の昭和31年（1956）から平成13年（2001）までの、複数優勝を含む27都道府県の県木が並んでいる。

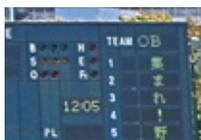


17 不思議なスコアボード

高校軟式野球の聖地としても知られる

る明石トーカー球場。

この球場のスコアボードのBSO（ボール・ストライク・アウト）表示には、なぜか「ストライク」が3つ。もちろん3番目のストライクは使われたことはないのだが、なぜ？



写真提供：山本利久さん

理由は国際基準に合わせてBSO方式から、BSO方式に変わった際の名残だそう。

18 この木なんの木？

かつて当地にあった兵庫県簡易農学校（現・兵庫県立農業高等学校）。その第1期生が明治34年（1901）に記念植樹したラクウショウ（落羽松）という名前の木。県下最大のラクウショウといわれ、県指定の郷土記念物となっている。



写真提供：山本利久さん

19 震災記念碑

戦後日本を代表するプロレスラー、ジャイアント馬場氏。明石は昔、プロ野球のキャンプ地で、巨人の選手時代に明石出身の妻・元子さんと出会った。明石も大きな被害を受けた阪神淡路大震災を記録するため、平成10年（1998）、馬場さんが募った義援金を明石ロータリークラブに寄付し、この「震災の碑」が造られた。石碑の高さは馬場さんの身長（2m9cm）と同じ！「馬場さん夫妻のお墓も明石の本松寺にあります」（今村さん）



20 石垣の長さ。実は!? 明石城の石垣の端から端までの長さは380m。これは魚の棚の商店街とほぼ同じ長さだそう。



おすすめ!

おびくろわ「帯郭」探訪

明石城の防衛と石垣の安定のため、周囲に巡らされた帯郭。「本丸下の帯郭を歩く」と、両櫓の迫力や、扇の勾配といわれる曲線を描く算木積み石垣の美しさを実感できます。（田淵さん）
二ノ丸・東ノ丸下の帯郭から西の方角を望めば、両櫓と石垣の調和が綺麗に見え、絶好のフォトスポット。



想いは江戸時代に

⑧猫バス石と⑨謎の刻印の石垣前の東帯郭からは、淡路島までの眺望が高い建物の地に遮られることなく味わえる。「明石海峡と西国街道をおさえる明石城の軍事上の立地が理解でき、江戸時代の景色をしるぶることができる絶景ポイントです」（明石市文化振興課学芸員の加納亜由子さん）



写真提供：兵庫県園芸・公園協会

車いすの無料貸し出しをしています。

明石公園サービスセンター

（公園管理事務所）
●明石市明石公園1-27
☎078-912-7600
受付時間：8:45～17:00
（毎月の初日は9:00～17:00）
※12月29日から翌年1月3日までの年末、年始を除く

あかし案内所

●明石市大明石町1-1-23
ピオレ明石西館
☎078-911-2660
営業時間：平日9:00～19:00
土日祝9:00～18:00
休：12月31日/1月1日

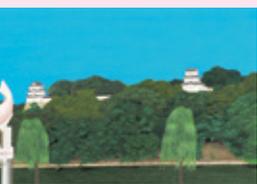
エッセイ 『ひるあみ』表紙画家・須飼秀和 心のキャンバス〜明石公園を想う



あいすくりん屋さん(2005年)

明石公園はいつも身近な存在でした。子供の頃は、友達と図書館やザリガニ釣りによく行き、学校での遠足や苦手だったマラソンも明石公園でした。家族とは、剛ノ池の桜並木を歩いたり、芝生広場で遊んで食べた、あいすくりん屋さんのさわやかな味と蟬の声は今も良き思い出です。画家となった今も時折訪れて、気分転換や構図の研究のため、四季折々に変わる草木の美しさや、水鳥たちの動き、楽しむ人たちの姿を見て

制作への力をもらっています。また、櫓の間から見える駅前の風景は時代と共に変わる明石が映り、再開発が決まったときは青春の風景をカメラにおさめに行きました。



明石のお城(2009年)

明石駅のホームに降りると、潮のかおりと二つの櫓は、いつも「おかえり」と出迎えてくれるような気がします。明石市民は僕と同じように家に帰って来たような安らぎを感じてくれているのではないのでしょうか。



明石城からの眺め(2015年)



「明石球場は小さい頃から憧れの聖地でした」

明石トーカーロ球壇
今や甲子園出場の常連校として全国に知られる明石商業高校野球部。ここまで導いてきた狭間善徳監督は、野球少年として明石で育った。

取材文 郡麻江
写真 田村和成

「100人の子どもがいたら100通りの考え、指導の切り口がある。僕の言動や指導で人生を変えてしまうかもしれない」。狭間監督はグラウンドに入る前にそんなふうを考えて、怖さを感じることもあるそう。それほど、真剣勝負で生徒たちと向き合っているのだろう

「明石公園には、小さい頃からの思い出がたくさんあります。父親がプロ野球好きでね、明石球場でキャンプをしている中日ドラゴンズを見に行ったことがあります。谷沢健一選手（1969年ドラフト1位、翌年「新人王」受賞）がルーキーで入団したときです。僕にとつて明石球場が、初めて身近に野球に触れた場所といえますね」

狭間監督は懐かしそうに話す。明石はソフトボールが盛んで、監督も割池谷地区のチームで活躍していた。小学校4年からピッチャーを任せられ、強い



だけが落ちてしまった。その光景をよ

く覚えていると、楽しそうに笑う。

野球を通して学んでほしい生き方

「僕はよく、『熱血スタイル』の監督だといわれますが、それは、明徳義塾の馬淵史郎監督に学んだことが大きいでしょうね。実は、向こう（高知県）で骨を埋めるつもりだったんです。でも、明石市でたまたま野球指導経験者の募集があつて、高校野球の監督になるなら今だ！というこゝもあつたし、やっぱり明石に恩返しをしたいという強い思いもあつて応募しました」

明商に赴任したものの、当時は今のようには野球に専念できる環境ではなかった。誰よりも早く、監督自身がグラウンドに出て、草抜きや整備をコツコツやりはじめた。そのうち、部員たちも自らやるようになってきたそう。だ。「彼らの人生ごと預かっているという覚悟を持って、部員一人ひとりと向き

合い、とことん話をしました」

赴任して3年後の2008年、県大会でベスト4に進出。2010年からは4季連続・通算5回目の甲子園出場を決めた。狭間監督率いる明商は兵庫県内屈指の強豪校へと成長した。

「試合に勝つだけが目的ではなく、一番大事なものは、『人としてどう育てるか』ということ。集団の中で自分も努力して、相手のことも考えられる人間に育てたい。野球を通してそれができる人間に成長してほしいですね」

実は、明商は明石球場で甲子園出場を決めたことがない。今まではいつも、ほっともつとフィールド神戸だった。「それでも」と狭間監督は言う。

「明石球場は、地元の応援もすごいし、芝がきれいで、やっぱりいいもんですよ。それに、この球場はホームランが出にくいんです。相手が強いと打たれやすいから、守りを固められる球場は

チームから19奪三振を取ったこともあつたが、地区対抗で戦う地域大会では、なかなか優勝できなかった。

「優勝チームだけが、代表として明石球場で試合できるので、明石の子にとつて、球場は憧れの聖地でした」

その後、望海中学の野球部に入部し、シヨートを守った。中学校総体に出場して、ようやく明石球場で試合することができたという。高校は、野球が強い明石南高校に進学した。

「3年生の夏の県大会の時に、明石球場でベスト8を賭けた試合に臨んだんですが、報徳学園に負けてしまいました。でも、地元の球場で試合ができたのは、本当にいい思い出ですね」

ほかにも明石公園にまつわる忘れがたい思い出があるという。幼い頃、アイスクリームの屋台があり、とても美味しかったそう。あるとき、買ってもらつてあまりの嬉しさに思わずジャンプしてしまい、コーンの上のアイス

ありがたいことだと思えます」

甲子園のようにフェンスが高いと風が巻いてホームランになりやすいが、明石球場の場合、明石城の景観保全のためフェンスが低いそう。

「毎年、夏になると明石公園中がセミの声で溢れるでしょ？『ああ、夏がきた、高校野球が始まる季節だ！』と身が引き締まります。思い出が多い明石球場は、やっぱり大事なホームグラウンドだと思います」

明石商業高校野球部の監督室にて。取材中、野球部の生徒一人ひとりが密着しに帽子を取って挨拶してグラウンドに走っていく。一人の人間としてしっかり育てる。そんな監督の思いが、すべての部員の中に根付いていることを感じる



はざま・よしのり 1964年熊本県生まれ。幼少より明石で育つ。花園小学校、望海中学校、明石南高校を経て、日本体育大学に進学し教員免許を取得。卒業後、明石南高校、高砂南高校の野球部コーチや企業勤務を経て、高知の明徳義塾高校のコーチ・同中学校の監督に就任。中学野球部を4度の全国制覇に導いた。2005年、地元「明石」の野球指導経験者の募集を受け、翌年、明石商業高校野球部コーチに就任し、2007年より現職。

明石公園の入り口で、お侍姿のロボットが太鼓を打つ「とき打ち太鼓」は、歴史的にどんな意味があるのですか？

「ひるあみ」読者と明石をつなぐコーナー「アカシのト」、今回は西宮市出身のD・K（50代男性）さんの質問です。

城下に時を知らせる太鼓の音色。どうやって動かしている？

そもそも「とき打ち太鼓」の由来とは？

●明石城太鼓門跡脇にある「とき打ち太鼓」は、平成元年の「ふるさと創生事業」の折、明石市制施行70周年を記念して作られた。

●明石城築城当時から明治維新までの約250年間「明石城太鼓（とき打ち太鼓）」が太鼓門に置かれて、一刻（2時間）ごとに数を変えて太鼓を打ち鳴らし、城下に時を告げていた（現物は、明石神社に保存）。



時間になると幕が開いて、まるで舞台のように武士ロボットと太鼓が登場する。いまや明石公園のシンボリック存在だ（撮影用に特別にガラス扉を開けています）

その伝統にちなんで、武士の姿をしたロボットが時を知らせてくれる……そうです。

この武士ロボットを動かしているのもちろん電力。昭和23年（1948）創業「電気のことなら中村さん」と明石の人々に親しまれてきた（有）中村電設興業の代表取締役、田中敏勝さんが教えてくれました。

「最初の試運転のとき、電気のパワーが足りなくてロボットが動かない。すぐにパワーアップした機械と取り替えて、無事動いてくれたんですが、ほんとしましたよ（笑）」

華やかな光が再び、街に灯る日を夢見て。

同社はまた、2019年の「明石城築城400周年」の石垣ライトアップほか、さまざまな事業の電源工事を担いました。

「今はなかなかイベント開催も難しいですが、いつの日か、ライトアップや提灯飾りで、明石の街を精一杯照らして、賑やかに、華やかに盛り上げていきたいですね」



田中さん（中央）を囲んで、明石を照らす灯を日々守ってくれている社員の皆さん

有限会社
中村電設興業
●明石市相生町2-11-20
☎078-912-1355

表紙のことは『剛ノ池のお花見』



春になると、明石公園には多くの方が訪れます。園内にはたくさんの桜の木があり、気に入った場所ですシートを広げ、宴がはじまります。なかでも剛ノ池の周りには桜並木があり、ひときわにぎやか。池には何艘ものボートが浮かび、水辺からも桜を楽しんでいます。水鳥たちも、この時ばかりは来園者たちと一緒に楽しんでいるようです……。コロナが終息し、公園と人びとが織りなす素敵な風景が戻ってくることを祈るばかりです。

すがい・ひでかず 1977年明石市生まれで明石市民。毎日新聞兵庫版に月1回「ひょうご見つけた風景」を連載。P7の「明石のお城」がポストカードとして（一社）明石観光協会でも販売。

季刊 ひるあみ Vol.4 春夏号

2021年3月31日発行
発行=(一社)明石観光協会
明石市東仲ノ町6-1 アスピア明石北館7F
☎078-918-5080
表紙絵=須銅秀和 デザイン=山崎慎太郎
編集=140B 岡本京子
印刷=(株)神戸新聞総合印刷
※記事の情報は2021年2月1日現在のものです。

Information!

(一社)明石観光協会では一緒に明石を盛り上げてくださる会員を募集しております。詳細は観光協会(☎078-918-5080)まで。

公園内でちょっと美味しく、ほっと一息。

◆TTT takeout food and drinks

三つのTは、Takeout、Tasty、Tableの“T”を表す。フードとドリンクをテイクアウトして、公園でピクニックしたり、イートインなら園内の緑を眺めてゆっくりと過ごしたりと、思い思いに楽しめる。

店内の真ん中にユニークなフォルムのテーブルがあり、お客さんは座席の位置を自由に動かすことができる。

メニューは野菜たっぷりのヴィーガンロコモコやベジタブルカレーなど、体に優しい素材を厳選した料理が揃う。うれしいことに、フードやドリンクを持ち込んでフリースペースとしても使える。光が差し込む大きなガラス戸は開放もでき、どの席からも公園の緑や明石城が見渡せて、明るい店内はいつ来てもとても気持ちがいい。まさに明石公園を堪能するための空間といえる。



写真のヴィーガンロコモコ1,200円(税込)など、野菜たっぷりのヴィーガンランチが人気

●明石市明石公園1-27 ☎078-917-0091
11:00~17:00(ランチカフェ、フリースペース)、17:00~21:00(予約のみ) 無休(天候・予約状況などにより、営業時間の変更あり)

広大な敷地は夢のフィールド 明石公園とスポーツの絆にクロージングアップ!

「ラケットスポーツ競技を支えます!」

◆有限会社 起己スポーツ
代表取締役 高岸豊さん

明石はソフトテニス(軟式テニス)も盛んだ。代表取締役の高岸さんも中、高、大とソフトテニスの選手だった。二代目としてスポーツ用品店を継いだのが12年前。その後、ラケットスポーツ専門店(へと経営方針をシフトした。ストリンギング(ガット張り)の技術と専門性が高く評価されて、遠方のリピーターも多い。取材時もラケットを手にした中、高生が訪れ、高岸さんにガット張りを頼んでいく。「うちで張ったガットのラケットで、勝ったで!」と報告しにきてくれると、やっぱりうれしいですね(高岸さん)

高岸さんも長男の秀考さんも、ガット張りの最高のマイスターといわれる「GOSEN張人(はりびと)」の認定資格を持つ。ひと支りに情熱を注いでラケットスポーツ文化を支える、こんな店が地元にあるとは心強い限りだ。



取材中もいっときも手を止めず、熟練の技でガット張りをする高岸さん

●明石市桜町11-13
☎078-911-5148
10:00~19:30 不定休

「明石の子どもたちに球技の楽しさを」

◆内外ゴム株式会社
営業本部 神戸スポーツ用品部係長 仙場信乃さん

野球・ソフトボールのバイオニアとして歩んできた同社は、明石に本社工場を構える。戦後間もない昭和22年(1947)から製造を開始した軟式野球ボールは、現在(公財)全日本軟式野球連盟の公認球として認定され、明石トーカー球場で開催される「全国高等学校軟式野球選手権大会」や「明石城旗学童軟式野球大会」でも使用されている。

最近では、「IoT製品」「テクニカルヒッチ」を新たに開発。ボールを投げると球速や回転数、球種などの打球データを計測する画期的な商品だ。また、日本プロ野球選手会と共同開発した「ゆうボール」は、柔らかいのが縫い目もあり、正しいボールの握り方が学べる。「明石の子供たちが『ゆうボール』で野球に親しんで活躍してほしいですね(仙場さん)」



小学校から大学まで野球選手だった仙場さん。野球への情熱は人一倍強い。右手に握る「ゆうボール」は日本プロ野球選手会の「キャッチボールプロジェクト」の一環として誕生した

●神戸市中央区栄町通
4-1-10
☎078-360-1362